

**- MONTHLY REPORT - 先進国資産配分コントロールファンド<成長型>**  
(愛称:コア成長)

Chugin Asset Management

追加型投信/内外/資産複合



運用実績

設定日・決算日・信託期間	
設定日	2016年4月28日
決算日	4月23日(休業日の場合は翌営業日)
信託期間	2026年4月23日

基準価額・解約価額・純資産総額	
基準価額(分配金控除後)	11,732 円
解約価額	11,732 円
純資産総額	2,452 百万円

※基準価額および解約価額は1万口当たりの価額で表示しております。

基準価額および純資産総額の推移



基準価額の騰落率

1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
1.0%	3.5%	10.3%	14.1%	—	17.3%

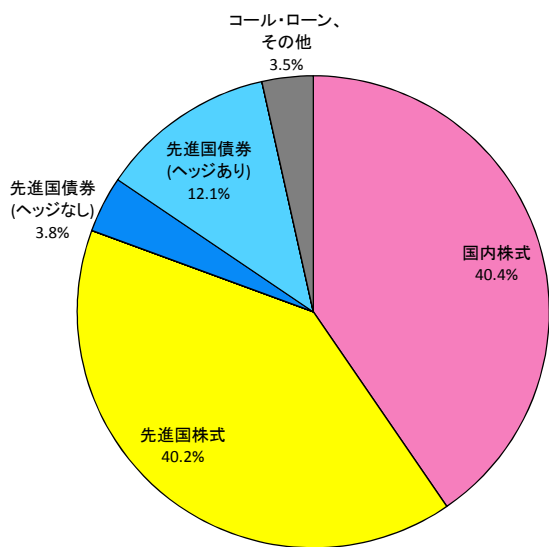
分配金実績(税引前)

決算年月	2017年4月	—	—	—	—
分配金	0円	—	—	—	—

※上記のグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。  
 ※基準価額の騰落率およびグラフのデータは、当ファンドの信託報酬(最大年率1.76%(税抜)程度)控除後の価額を用い、決算時に収益分配があった場合にその分配金を非課税で再投資したものと計算しております。従って実際のファンドにおいては、課税条件によって受益者ごとに指数、騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。  
 ※分配金実績の分配金は、1万口当たりの実績です。分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。  
 ※分配金は、ファンドの純資産から支払われますので、分配金支払いにより純資産が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。  
 なお、基準日時点での分配金実績はございません。

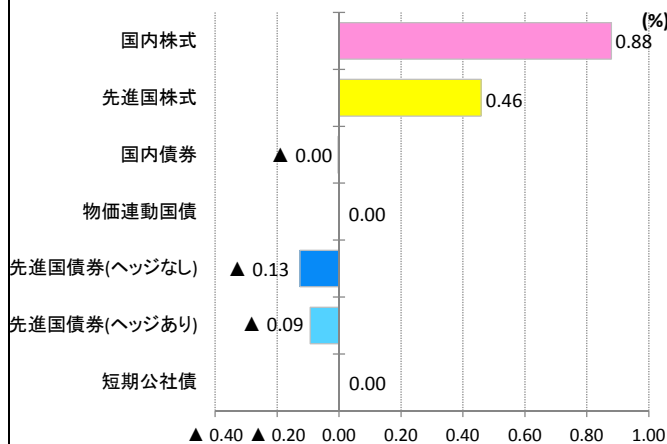
資産別組入比率・騰落率要因

資産別組入比率



※図は、当ファンドの純資産総額に対する、各資産別に投資している指定投資信託証券等の評価額の比率です。

騰落率要因



※上記騰落率要因は、各資産別に投資している指定投資信託証券がファンドの騰落率(1ヵ月)に与えた影響等の目安をお伝えするために簡便的に計算した概算値であり、信託報酬等の費用を考慮していません。また、その正確性、完全性を保証するものではありません。  
 ※各騰落率要因は、各指定投資信託証券の、課税前分配金を考慮した月間騰落率と基本資産配分比率に基づく概算値です。各騰落率要因の合計と当ファンドの騰落率(1ヵ月)は必ずしも一致するものではありません。

※5ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

## - MONTHLY REPORT -

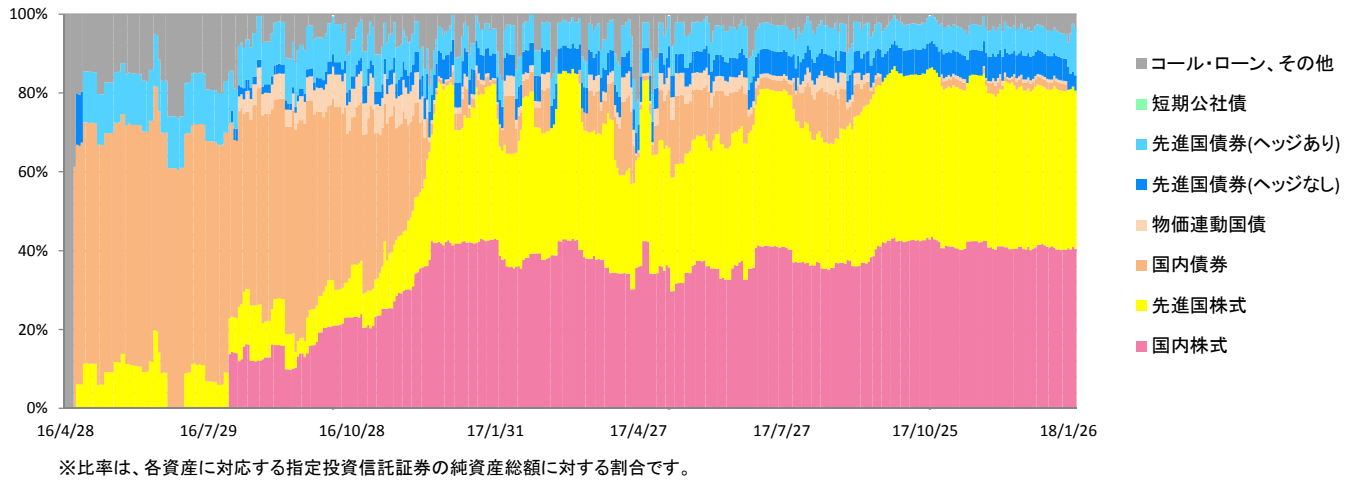
先進国資産配分コントロールファンド<成長型>  
(愛称:コア成長)

Chugin Asset Management

追加型投信/内外/資産複合



## 資産別組入比率の推移



## 基準価額変動要因の推移

日付	基準価額 (分配落後)	前月末比	国内株式	先進国株式	国内債券	物価連動 国債	先進国債券 (ヘッジなし)	先進国債券 (ヘッジあり)	短期公社債	その他	分配金
2017年11月	11,397	66	45	34	0	0	1	1	0	▲15	0
2017年12月	11,620	223	90	141	0	1	9	▲1	0	▲16	0
2018年1月	11,732	112	102	53	▲0	0	▲15	▲11	0	▲18	0

単位:円

※上記の要因分析は、各資産クラス内の組入株式・債券等の値動きの影響等が基準価額に与えた影響をご理解いただくために簡便的に計算した概算値であり、その正確性・完全性等を保証するものではありません。四捨五入の関係上、前月末比と各項目の合計が一致しない場合があります。※その他には信託報酬等を含みます。

## 運用担当者のコメント

## ◆市場動向

国内株式	前半は世界景気の拡大期待で年初から上昇したものの、その後日銀の金融緩和縮小観測による円高ドル安から株価は横ばいになりました。後半は日銀の金融政策決定会合で金融緩和縮小観測が後退したことや、堅調な景気見通しが示されたことが上昇要因となったものの、米国財務長官の発言等から急速な円高進行が嫌気され株価は下落しました。月間では上昇しました。
先進国株式	【米国】前半は良好なISM(米国供給管理協会)製造業指数や、税制改革による企業の業績改善期待から上昇しました。後半は、政府機関閉鎖を巡る政治リスクが上値抑制要因になるも、好調な決算発表や経済指標、ドル安を受けた輸出企業の業績拡大期待等から、株価は上昇しました。月間では株価は上昇しました。 【欧州】前半はドイツの鉱工業生産等の堅調な経済指標を背景に上昇したものの、早期利上げ観測を受けたユーロ高が嫌気され上値の重い展開になりました。後半はドイツの政治不透明感の後退や、ECB(欧州中央銀行)理事会にて早期利上げ観測が後退したこと等から株価は上昇したものの、世界的な株価下落に連れて上昇幅を縮小しました。月間では上昇しました。
国内債券	前半は、日銀の国債買入オペ減額を受けて、金利は上昇しました。その後は日銀が10年国債利回りを0-0.1%に誘導する目的で行う指値オペが意識される中、横ばいで推移しました。後半は、日銀金融政策決定会合で、現状の政策スタンスが維持され金利の低下圧力となる一方、欧米金利の上昇が金利の上昇圧力となりました。月間では金利は上昇しました。
先進国債券	【米国】前半は堅調な経済指標に加え、日欧の金融緩和縮小観測の高まりや、中国の米債投資縮小報道を受け、金利は上昇しました。後半は株式市場が高値を更新する中、米景気拡大への期待感や原油高とドル安を受けた期待インフレ率の上昇が金利の上昇圧力となりました。月末に開催されたFOMC(米連邦公開市場委員会)では、今後の利上げペースについてややタカ派的に捉えられました。月間では金利は上昇しました。 【欧州】前半は12月のECB理事会議事要旨発表を受け、政策ガイダンスの早期変更が意識されたことから、金利は上昇しました。月末のEOB理事会を経て、早期の政策変更観測は後退したものの、米国金利に連れて金利上昇が継続しました。月間では金利は上昇しました。
為替	ドル円は、月初は良好な米国経済指標からドル高基調で推移するも、日銀の金融緩和縮小観測を受けて円高に転じました。後半は米国政府機関閉鎖を巡る政治リスクや、米国財務長官の発言からドル安が一段と進行し、月間で円高ドル安となりました。ユーロ円は、欧州の堅調な景気指標からユーロ高で推移するも、日銀の金融緩和縮小観測を受けて円高に転じました。後半はドイツ政局の不透明感の後退や、欧州の早期利上げ観測がユーロ高要因となるも、ECB理事会を経て観測が後退したことから、横ばいとなり、月間で横ばいとなりました。

## ■運用状況

三菱UFJ信託銀行の投資助言に基づき、各指定投資信託証券等を組み入れた運用を行いました。

『株式ウエイトマトリクス』(交付目論見書P.3参照)の1月末の状況は以下のとおりです。

- ・国内株式の「投資環境」はやや良好、「株式部分の収益寄与」はかなり高い局面
- ・先進国株式の「投資環境」はやや良好、「株式部分の収益寄与」はかなり高い局面

ファンドの資産配分を決定するMTECモデルを改良しました。詳細は中銀アセットマネジメントのHPでご確認ください。

**- MONTHLY REPORT - 先進国資産配分コントロールファンド<成長型>**  
(愛称:コア成長)

Chugin Asset Management

追加型投信/内外/資産複合



**ファンドの目的・特色 (くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)**

◆ファンドの目的

日本を含む世界各国の株式、債券および短期金融資産を実質的な主要投資対象とし、値上がり益の獲得および利子・配当等収益の確保をめざします。

◆ファンドの特色

- ・世界の株式や債券を主な投資対象とし、投資環境の変化に合わせて組入比率を変更する投資信託です。
- ・指定投資信託証券への投資を通じて、国内および先進国の株式、債券および短期金融資産に実質的な投資を行います。
- ・国内株式、先進国株式の組入比率を高めることで、株式相場上昇局面における株式の値上がり益の獲得を目指すファンドです。
- ・三菱UFJ信託銀行株式会社の投資助言・情報提供に基づき、中銀アセットマネジメント株式会社が運用を行います。
- ・各資産の組入比率は以下の範囲で変動します。

＜各資産の組入比率＞

	＜安定型＞	＜成長型＞
国内株式	0.0%～12.0%	0.0%～42.5%
先進国株式	0.0%～12.0%	0.0%～42.5%
国内債券	0.0%～51.0%	0.0%～51.0%
先進国債券	0.0%～25.0% (原則25.0%固定とします)	0.0%～25.0% (原則13.0%～25.0%とします)

※上記以外に短期金融資産を組入れる場合があります。  
※上記組入比率は、今後、変更となる場合があります。

＜下方リスク抑制型バランスについて＞

- ・三菱UFJ信託銀行が運用する年金向け運用商品「下方リスク抑制型バランス」の運用手法を活用しています。
- ・リスク抑制の観点、および収益追求の観点から、内外株式を軸としてポートフォリオ全体のリスクコントロールを行う運用手法です。
- ・投資環境の変化に応じて、各資産の組入比率を機動的に変更しながら運用を行います。

＜株式ウエイトマトリクスについて＞

- ・株式の組入比率については、投資環境や株式部分の収益寄与に基づいて決定する「株式ウエイトマトリクス」を活用します。
- ・「投資環境」は、株式市場や景気の方角性、信用リスクに対する市場の反応の大きさ、株式市場の値動きの大きさ等を測る複数の指標を用いて計算される相場局面判断インデックスをもとに判断します。
- ・「株式部分の収益寄与」は、過去の株式の収益率に組入比率を勘案して算出します。  
※「株式ウエイトマトリクス」は、各資産(国内株式、先進国株式)ごとに異なります。また、「投資環境」を判断する各指標については、今後変更になる場合があります。
- ・株式の組入比率を決定したのち先進国債券の組入比率を決定し、残りは国内債券等に投資します。
- ・国内債券における物価連動国債の比率および先進国債券における為替ヘッジの比率は、国内株式の組入比率に連動して変更します。
- ・国内外の債券市場が下落した場合等に債券の組入比率を引き下げ、マネープールファンド等への投資を行う場合があります。

＜為替対応方針＞

- ・実質組入外貨資産のうち株式部分については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ・実質組入外貨資産のうち債券部分については、株式ウエイトマトリクスに基づく、国内株式組入比率に連動して、ヘッジを行う部分のウエイトを75%～100%の範囲で変更します。

＜物価連動国債対応方針＞

- ・国内債券部分について、インフレ局面に対応すべく、一部物価連動国債への投資を行います。
- ・国内債券部分のうち物価連動国債については、株式ウエイトマトリクスに基づく、国内株式組入比率に連動して、物価連動国債部分のウエイトを0%～30%の範囲で変更します。

＜収益分配方針＞

- ・毎年4月23日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき収益分配を行います。
- ・分配対象額の範囲は、経費等控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。
- ・収益分配金額は、委託者が分配可能額、基準価額水準、市況動向等を勘案のうえ決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。
- ・収益の分配に充てなかった留保益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。  
※将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

＜主な投資制限＞

- ・株式への直接投資は行いません。
- ・投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。
- ・外貨建て資産への直接投資は行いません。
- ・同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。

※5ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

 中銀アセットマネジメント

# - MONTHLY REPORT- 先進国資産配分コントロールファンド<成長型> (愛称:コア成長)

Chugin Asset Management

追加型投信／内外／資産複合



投資リスク（くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

## ◆基準価額の変動要因

当ファンドは、実質的に国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。したがって、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではありません。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

## ■価格変動リスク

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的には株式を投資対象とする場合があります。株式の価格は、国内および国際的な政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式の価格が変動すれば当ファンドの基準価額の変動要因となります。

## ■金利変動リスク

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的には債券を投資対象とする場合があります。投資対象としている債券の発行通貨の金利水準が上昇(低下)した場合には、一般的に債券価格は下落(上昇)し、当ファンドの基準価額の変動要因となります。また、組入債券の残存期間や利率等も価格変動に影響を与えます。例えば、残存期間の長い債券は金利変動に対する債券価格の感応度が高く、価格変動が大きくなる傾向があります。

## ■為替変動リスク

当ファンドは、投資信託証券を通じて、実質的には外貨建資産に投資を行う場合があります。投資対象としている有価証券の発行通貨が円に対して強く(円安に)なれば当ファンドの基準価額の上昇要因となり、弱く(円高に)なれば当ファンドの基準価額の下落要因となります。また、実質的に保有する外貨建資産の一部分について為替ヘッジを行う場合があります。為替ヘッジを行うにあたり、円金利が当該通貨の金利より低い場合には、その金利差相当分のコストがかかります。

## ■信用リスク(デフォルトリスク)

投資信託証券への投資を通じて、実質的に投資している有価証券等の発行体の倒産、財務状況または信用状況の悪化等の影響により、当ファンドの基準価額は下落し、損失を被ることがあります。

## ■流動性リスク

有価証券等を売却あるいは購入しようとする際に、買い需要がなく売却不可能、あるいは売り供給がなく購入不可能等となるリスクのことをいいます。例えば、市況動向や有価証券等の流通量等の状況、あるいは当ファンドの解約金額の規模によっては、組入有価証券等を市場実勢より低い価格で売却しなければならないケースが考えられ、この場合には当ファンドの基準価額の下落要因となります。

## ■物価変動リスク

当ファンドは、投資信託証券への投資を通じて、実質的には物価連動国債を投資対象とする場合があります。物価連動国債は、実際の物価変動により、償還金と利金額が変動します。また、予想物価上昇率の変化にともない、物価連動国債の価格も変動します。公社債市場において、将来の物価上昇率が以前の予想よりも低くなるという見方が広がると、金利水準が一定の場合、物価連動国債の価格は下落します。これらの影響を受け、当ファンドの基準価額が下落する可能性があります。

## ◆その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

## ◆リスクの管理体制

委託会社では、リスク管理規程において、運用に関するリスク管理方針を定め、運用部から独立した部署が、運用の指図について運用の基本方針や法令諸規則等に照らして適切かどうかのモニタリング・検証を通じて、運用リスクの管理を行っています。


## 委託会社、その他関係法人

◆委託会社： 中銀アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第10号)  
一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会 会員  
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。

◆受託会社： 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)  
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。

◆販売会社： 株式会社中国銀行(登録金融機関 中国財務局長(登金)第2号)  
日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会 会員  
中銀証券株式会社(金融商品取引業者 中国財務局長(金商)第6号)  
日本証券業協会 会員  
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

※5ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。

 中銀アセットマネジメント

# - MONTHLY REPORT - 先進国資産配分コントロールファンド<成長型> (愛称:コア成長)

Chugin Asset Management

追加型投信/内外/資産複合



## 当資料のご利用にあたっての注意事項等

- ◆ 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。販売会社が登録金融機関の場合、投資者保護基金に加入していません。投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- ◆ 当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために中銀アセットマネジメントが作成した資料です。当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ◆ 当資料中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差を生じることがあります。
- ◆ 市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。
- ◆ 当資料は、特定銘柄の売買などの推奨、または価格などの上昇や下落を示唆するものではありません。

## 指定投資信託証券とその対象指数(ベンチマーク)について

投資信託証券名	主要投資対象	運用目標
MUAMインデックスファンドTOPIXi (適格機関投資家限定)	国内株式	東証株価指数(TOPIX)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
MUAM外国株式インデックスファンド (適格機関投資家限定)	先進国株式 (国内株式を除く)	MSCI Kokusai Index(MSCI コクサイインデックス) (円換算ベース)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
MUAM日本債券インデックスファンド (適格機関投資家限定)	国内債券	NOMURA-BPI総合インデックスと連動する投資成果をめざして運用を行います。
国内物価連動国債インデックスファンド (適格機関投資家限定)	国内債券(物価連動国債)	NOMURA物価連動国債インデックス(フロアあり)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
MUAM外国債券インデックスファンド (適格機関投資家限定)	先進国債券(ヘッジなし) (国内債券を除く)	シティ世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
MUAMヘッジ付外国債券インデックスファンド (適格機関投資家販売制限付)	先進国債券(ヘッジあり) (国内債券を除く)	シティ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)と連動する投資成果をめざして運用を行います。
マネーブルファンド(FOFs用) (適格機関投資家限定)	国内の短期公社債等	安定した収益の確保をめざして安定運用を行います。

※ 指定投資信託証券は、定性・定量評価等により適宜見直しを行います。この際、指定投資信託証券として指定されていた投資信託証券を指定から外したり、新たに投資信託証券(ファンド設定以降に設定された投資信託証券も含みます。)を指定投資信託証券として指定する場合があります。

- ・「東証株価指数(TOPIX)」とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。  
東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは利用の停止を行う権利を有しています。
- ・「MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイインデックス)」とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。  
MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイインデックス)(円換算ベース)は、MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイインデックス)(米ドルベース)をもとに、三菱UFJ国際投信株式会社が算出したものです。MSCI Kokusai Index(MSCIコクサイインデックス)に対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。
- ・「NOMURA-BPI総合」とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債の他、地方債、政府保証債、金融債、事業債、および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI総合は野村證券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。
- ・「NOMURA物価連動国債インデックス(フロアあり)」とは、野村證券株式会社が発表している日本国が発行したフロアありの物価連動国債のパフォーマンスインデックスで、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。  
NOMURA物価連動国債インデックス(フロアあり)は野村證券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。
- ・「シティ世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジ・円ベース)」とは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。
- ・「シティ世界国債インデックス(除く日本、円換算ベース)」とは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

**- MONTHLY REPORT - 先進国資産配分コントロールファンド<成長型>**  
**(愛称:コア成長)**  
 Chugin Asset Management 追加型投信/内外/資産複合



お申込みメモ (くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)	
購入単位	販売会社が定める単位(1口以上1口単位、1円以上1円単位)
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。(一万口当たり)
購入代金	お申込みをされた販売会社が定める所定の日時まで購入代金を販売会社に支払うものとします。
換金単位	販売会社が定める単位(1口以上1口単位、1円以上1円単位)
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して8営業日目からお支払いいたします。
申込締切時間	下記申込不可日を除く、日本における販売会社の営業日の午後3時まで受け付けます。
申込不可日	ニューヨーク証券取引所の休業日、ニューヨークの銀行の休業日、ロンドン証券取引所の休業日、ロンドンの銀行の休業日、その他ニューヨークまたはロンドンにおける債券市場の取引停止日は、購入・換金のお申込みができません。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止および取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受け付けた購入・換金のお申込みの受付を取消す場合があります。
信託期間	2026年4月23日まで(2016年4月28日設定)
繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解消し、当該信託を終了する場合があります。①一部解約により残存口数が10億口を下回った場合②受益者のために有利であると認めた場合③やむを得ない事情が発生したとき
決算日	原則として年1回、毎年4月23日。ただし、決算日が休業日の場合は翌営業日とします。
収益分配	年1回、毎決算日に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 (委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。) ※「分配金受取コース」の場合、決算日から起算して原則として5営業日目までにお支払いを開始します。 ※「分配金再投資コース」の場合、税引後、申込手数料なしで自動的に全額が再投資されます。
公告	委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行います。
運用報告書	委託会社は、毎計算期間終了後および償還時に、期中の運用経過等を記載した交付運用報告書を作成し、知っている受益者に、販売会社を通じて交付します。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度、未成年者少額投資非課税制度の適用対象です。 益金不算入制度、配当控除の適用はありません。 <b>※税法が改正された場合等には、上記の内容が変更されることがあります。</b>

お客様にご負担いただく費用について (くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)		
以下の手数料等の合計額等については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。 詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。		
●購入時		
購入時手数料	ありません。	
●換金時		
換金時手数料	ありません。	
信託財産留保額	ありません。	
●保有期間中(信託財産から間接的にご負担いただきます。)		
運用管理費用 (信託報酬)	ファンド	信託財産の純資産総額に対して年率1.6524%(税抜1.53%)
	投資対象とする投資信託証券	ファンドの投資対象のファンドの純資産総額に対して最大年率0.2484%(税込)程度 (最大年率0.23%(税抜)程度)
	実質的な負担	ファンドの純資産総額に対して最大年率1.9008%(税込)程度 (最大年率1.76%(税抜)程度)
その他の費用・手数料	監査報酬、信託事務の諸費用などお客様の保有期間中、その都度かかります。 (監査報酬：純資産総額 × 年率 0.0054% (税抜0.005%)) ※「その他の費用・手数料(監査報酬を除く)」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限等を示す事ができません。	

※5ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」を必ずご確認ください。